

別紙3 保育所等で流行しやすい感染症及び登所、登園のめやすについて

保育所における感染症対策ガイドライン準拠
(平成24年11月 厚生労働省発行)

感染症名	主な症状	登所、登園のめやす	意見書	予防接種
麻疹(はしか)	発熱・咳・鼻汁・結膜充血・目やに・コプリック斑・発しん	解熱した後3日を経過するまで	要	有
風しん(三日はしか)	発熱・発しん・リンパ節腫脹	発しんが消失するまで		
インフルエンザ	突然の高熱・全身倦怠感・関節痛・筋肉痛・頭痛・咽頭痛・鼻汁・咳	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで		
水痘(水ぼうそう)	発しんは体幹から全身に、頭髪部や口腔内にも出現する	すべての発しんが痂皮化するまで		
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発熱・片側ないし両側の唾液腺の有痛性腫脹(耳下腺が最も多いが顎下腺もある)	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日を経過するまで、かつ全身状態が良好になるまで		
百日咳	感冒様症状からはじまる。次第に咳が強くなり、1~2週で特有な咳発作になる	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療を終了するまで		
結核	肺結核では、咳・痰・発熱で初発し、おおむね2週間以上遷延する	医師により感染のおそれがなくなったと認められるまで		
咽頭結膜熱(プール熱)	39℃前後の発熱・咽頭炎(咽頭発赤・咽頭痛)頭痛、食欲不振、眼症状として結膜炎、涙が多くなる、目やに	主な症状(発熱、咽頭発赤、眼の充血)が消失してから2日を経過するまで		
腸管出血性大腸菌感染症	激しい腹痛・頻回の水様便・さらに血便・発熱は軽度	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48時間あけて連続2回の検便によっていずれも菌陰性が確認されたもの		
流行性角結膜炎(はやり目)	流涙・結膜充血・目やに・耳前リンパ節の腫脹と圧痛を認める	医師により感染のおそれがなくなったと認められるまで(結膜炎の症状が消失してから)		
急性出血性結膜炎	急性結膜炎で結膜出血が特徴			
感染性胃腸炎(ノロ、ロタ、アデノウイルス等)	嘔気・嘔吐、下痢(黄色より白色調であることが多い)・発熱	嘔吐・下痢等の症状が治まり、普段の食事ができること		
溶連菌感染症	上気道感染では突然の発熱、咽頭痛を発症しばしば嘔吐を伴う	抗菌薬内服後24~48時間経過していること ただし、治療の継続は必要		
RSウイルス感染症	発熱・鼻汁・咳・喘鳴・呼吸困難	重篤な呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと		
手足口病	水疱性の発しんが口腔粘膜及び四肢末端に現れる	発熱がなく(解熱後1日以上経過し)、普段の食事ができること		
ヘルパンギーナ	突然の高熱(1~3日続く)、咽頭痛、口蓋垂付近に水疱疹や潰瘍形成			
突発性発しん	38℃以上の高熱が、3~4日間続いた後、解熱とともに体幹部を中心に鮮紅色の発しんが出現する	解熱後1日以上経過し、全身状態が良いこと		
マイコプラズマ肺炎	咳、発熱、頭痛などの風邪症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる	発熱や激しい咳が治まっていること(症状が改善し全身状態が良い)		
伝染性紅斑(リンゴ病)	軽いかぜ症状を示した後、頬が赤くなったり、手足に網目状の紅斑が出現する	発しんが出現した頃にはすでに感染力は消失しているので、全身状態が良いこと		
単純ヘルペス感染症	歯肉口内炎、口周囲の水疱、歯肉が腫れ、出血しやすく、口内痛も強い	発熱がなく、よだれが止まり、普段の食事ができること		
帯状疱疹	小水疱が神経の支配領域にそった形で片側性に現れる正中を超えない	すべての発しんが痂皮化するまで	不要	
伝染性膿痂疹(とびひ)	湿疹や虫刺され痕を搔爬した部に細菌感染を起こし、びらんや水疱病変を形成する	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が被覆できる程度のものであること		
アタマジラミ	小児では多くが無症状であるが、吸血部位にかゆみを訴えることがある	駆除を開始していること		
伝染性軟属腫(ミズイボ)	直径1~3mmの半球状丘疹で、表面は平滑で中心臍窩を有する	搔きこわし傷から滲出液が出ているときは被覆すること		
A型肝炎	急激な発熱、全身倦怠感、食欲不振、悪心、嘔吐ではじまる	肝機能が正常であること		
B型肝炎	急性肝炎の場合、症状が消失し、全身状態が良いこと	急性肝炎の場合、症状が消失し、全身状態が良いこと キャリア、慢性肝炎の場合は、登園に制限はない		